

日本海中部地震から25年。防災訓練を実施しました



地域住民による安否確認



昭和58年5月26日に、日本海沿岸を襲ったマグニチュード7.7の日本海中部地震から25年が過ぎました。八峰町では津波や家屋倒壊など甚大な被害を受け、15人の尊い命が失われました。町では毎年、自然災害の恐ろしさを風化させることなく語り継ぎ、その教訓を活かそうと、津波や火災を想定した防災訓練を行っています。今年は5月25日に茂浦地区で防災訓練が行われ、消防署、消防団、地域住民が一体となって取り組

消火器を使った初期消火体験



みました。午前8時、地震発生を想定し、防災無線による地震発生の合図で、茂浦地区の住民は八森土床体育館へと避難。各組ごとに集合して安否確認の訓練を行いました。また、隣接するゲートボール場で火災を想定した訓練を実施。「火事だー。火事だー」と住民による火事ぶれとともに、消防団が出勤し、すばい動作で放水訓練が行われました。その後、地域住民による

初期消火訓練が行われ、消防署員から消火器の使い方の説明を受けたあと、消火器による消火を体験しました。このほか、消防団による水防訓練が行われるなど、あらゆる災害にも対応した訓練が行われました。

土のうを積み上げた水防訓練



あのときの自然の恐ろしさを風化させるな！

多くの方が亡くなり、家屋や漁船などが倒壊するなど甚大な被害を受けた日本海中部地震。しかし、25年がたった今、当時の記憶がうすれ、また、幼少時であったりまだ生まれていなかったりと、新しい世代になるにつれて自然災害の恐ろしさが風化されていきます。

防災意識を高めるためにも、当時の様子を語り継ぎ、万が一のときに備えましょう。



大きな津波が襲った沿岸部！
港に停泊していた船は陸に打ち上げられたり、転覆しました



津波による引き潮で陸続きになった雄島



引き裂かれた地面
地震エネルギーの凄まじさを見せつけられました